

## 2023年度点検・評価シート

・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針

【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

## I 【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	30 日本文学専攻	責任者	藤尾 健剛
基準4	教育課程・学習成果	自己評価	B
★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> 4-6、4-7が不十分であるため、当該評価とした。			
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。		
★<学位授与方針> 博士課程前期課程 文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（日本文学）の学位を授与する。 1. (1)日本文学に対する深い知識を修得しており、古典および近現代文学を主とした様々な文学を総合的に理解することができる。 2. (1)古代から現代に至る日本語に対する知識を有し、的確な言語を使用することができる。 (2)古典および近現代文学に対して豊かな鑑賞力を有し、批評・分析することができる。 3. (1)専門的研究者として、建学の精神を踏まえ、積極的に多方面で活躍することができる。 (2)専門性を活かした職業人として、積極的に多方面で活躍することができる。  博士課程後期課程 文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（日本文学）の学位を授与する。 1. (1)日本文学に対する専門的職業人としての高度な知識を有し、古典および近現代文学を主とした様々な文学を総合的にとらえることができる。 2. (1)古代から現代に至る日本語に対する専門的職業人としての高度な知識を有し、的確な言語使用を行うことができる。 (2)古典および近現代文学に関する高度な分析能力を持ち、専門的研究者として優れた研究ができる。 3. (1)専門的研究者として、建学の精神を踏まえ、積極的に多方面で活躍することができる。	変 更	有( ) 無(○)	
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	上記の方針の公表は、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7		
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。		
◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。			
<<回答>> なし			
★<教育課程の編成・実施方針>（記入してください。） 博士課程前期課程 文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のよ	変 更	有( ) 無(○)	

<p>うな内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成しています。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 前期課程では、日本文学（上代から近現代まで）・日本語学の各分野にわたる科目と、関連諸科目として、中国文学・中国哲学・文化史・比較文学等の科目を、2年間の教育課程として編成している。</p> <p>(2) 演習科目と講義科目としての特殊研究科目とに分け、演習科目を研究指導教員による科目として位置付け、他は、演習科目と有機的に関連づけながら、専門的な知識と豊かな教養を身につける科目として編成している。</p> <p>(3) 文学・テキストを対象に研究を進め、言語・人間・世界（社会）の相関を根本から問いながら、高度な思索力・学術論文作成能力・教育力等を養成し、2年次には、個々の研究テーマに即して専門性に満ちた修士論文として結実させるよう指導を行う。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 演習科目は少人数による演習形式の授業である。学生に課題を与え、授業内において適切な指導と解説を行う。</p> <p>(2) 講義科目は学問研究に必要な研究方法の教示と、具体的な研究テーマに沿った講義・解説を行う。適宜、テスト・レポートなどを提出させる。</p> <p>(3) 演習科目、講義科目とも、インタラクティブな教育を実施する。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の達成状況を、日本文学専攻における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって評価するものとする。</p> <p>(2) 2年間の総括的な学修成果として、複数教員による修士論文の評価を行う。</p> <p>博士課程後期課程</p> <p>文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成しています。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 後期課程の科目編成は、前期課程と同様、日本文学・日本語学の各分野にわたる科目と、関連諸科目として、中国文学・中国哲学・文化史・比較文学等の科目を、3年間の教育課程として編成している。</p> <p>(2) 特に、演習科目を研究指導教員による科目として位置付け、前期課程における研究をさらに深め、より専門的で高度な研究へと進展させられるよう科目編成している。</p> <p>(3) 専門的で高度な研究能力・教育能力等を養成し、学界に通用する緻密かつ斬新で独創性のある博士論文として結実させるよう指導を行う。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 演習科目は少人数による演習形式の授業を行う。博士前期課程での研究成果をふまえ、より高次の指導を実施する。</p> <p>(2) インタラクティブな教育を行う。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の達成状況を、日本文学専攻における単位取得状況、研究指導受講状況、学位論文等の結果によって評価するものとする。</p> <p>(2) 3年間の総括的な学修成果として、複数教員による博士論文の評価を行う。</p>	
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。
評価の視点2 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。
評価の視点3※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7

## ★※DPとCPの連関について（DPとCPの各項目の番号を矢印で紐づけてください。）

## 博士課程前期課程

DP1 (1) → CP1 (1) (2) (3)  
 DP2 (1) → CP1 (1) (2) CP2 (1) (2) (3)  
 DP2 (2) → CP1 (1) (2) CP2 (1) (2) (3)  
 DP3 (1) → CP2 (1) (2) (3) CP3 (1) (2)  
 DP3 (2) → CP2 (1) (2) (3) CP3 (1) (2)

## 博士課程後期課程

DP1 (1) → CP1 (1) (2) (3)  
 DP2 (1) → CP1 (1) (2) (3) CP2 (1) (2)  
 DP2 (2) → CP1 (1) (2) (3) CP2 (1) (2)  
 DP3 (1) → CP2 (1) (2) CP3 (1) (2)

★項目(2) 4-2DP1からDP3について、それぞれの内容がどのようにCPの内容に反映されているのか（あるいは教育課程のどこで具現化されるのか）、その連関について説明してください。

以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものであります。なおここではDP1のみ抜粋ですが続きがあります。

・DP「1. 知識・技能」(1)に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」(2)の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」(1)で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、CP「1. 教育内容」(2)で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。

〈回答〉

## 博士課程前期課程

DP1「豊かな教養と専門知識およびそれを活用する技能」に明示した「(1) 日本文学に対する深い知識を修得しており、古典および近現代文学を主とした様々な文学を総合的に理解することができる。」については、CP1「教育内容(1)」で、例えば、『近代文学Ⅰ演習(二)』において「近代文学作品についての理解を深め、その分析能力を高める。」と明示されている。

DP2「他者との共同による問題発見・解決能力とそれを支える思考・判断・表現力」に明示した「(1) 古代から現代に至る日本語に対する知識を有し、的確な言語を使用することができる。」と「(2) 古典および近現代文学に対して豊かな鑑賞力を有し、批評・分析することができる。」については、CP1「教育内容(1)」で、『日本語学演習(二)』において「(1) 日本語における感動詞の基本的概念について理解する。(2) 感動詞をテーマに、さまざまな資料を調査し、感動詞の使用実態とその仕組みを的確に分析することができる。」、また『近代文学Ⅰ演習(二)』において「近代文学の種々の研究方法について解説し、批評的に論じる力を養成する。」と明示されている。

DP3「自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感とそれを支える思考・判断・表現力」に明示した「(1) 専門的研究者として、建学の精神を踏まえ、積極的に多方面で活躍することができる。(2) 専門性を活かした職業人として、積極的に多方面で活躍することができる。」については、CP1「教育内容(2)」で、例えば、『近代文学Ⅰ特殊研究(一)』において「文学作品を、当時の世界情勢や文化的環境を交えた幅広い視野で理解する知識とスキルを養成する」と明示されている。

## 博士課程後期課程

DP1「豊かな教養と専門知識およびそれを活用する技能」に明示した「(1) 日本文学に対する専門的職業人としての高度な知識を有し、古典および近現代文学を主とした様々な文学を総合的にとらえることができる。」については、CP1「教育内容(2)」で、例えば、『古典文学Ⅱ演習(二)』において「作者である慈円について、理解を深め、その上で和歌を読むことができること。」と明示されている。

DP2「他者との共同による問題発見・解決能力とそれを支える思考・判断・表現力」に明示した「(1) 古代から現代に至る日本語に対する専門的職業人としての高度な知識を有し、的確な言語使用を行うことができる。(2) 古典および近現代文学に関する高度な分析能力を持ち、専門的研究者として優れた研究ができる。」については、CP1「教育内容(1)」で、例えば、『日本語学演習(一)』において「(1) 日本語のモダリティの基本的概念について理解できる。(2) モダリティについての課題・テーマを設定して適切に分析できる。」、また『近代文学Ⅰ演習(一)』において「考察の結果を、小レポートや論文へと結実できる。」と明示されている。

DP3「自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感」に明示した「(1) 専門的研究者として、積極的に多方面で活躍することができる。」については、CP1「教育内容(3)」で、例えば、『古典文学演習Ⅱ演習(四)』に

<p>において「学生が、近世文芸についての研究を行い、研究論文を執筆することができる。」と明示されている。</p>	
<p><b>★教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。</b></p>	
<p>《回答》 なし</p>	
点検・評価項目(3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点1※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-2*大学院学則、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点2※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー
評価の視点3※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点4※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-2*大学院学則
評価の視点5※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-2*大学院学則、基礎要件確認シート9、10
評価の視点6※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点7※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B4-19 研究科 科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要）
評価の視点8※	コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程を設置している。根拠資料→B4-19 研究科科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要）
評価の視点9※	専攻の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点10	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。
<p><b>★項目(3) 4-3①社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。</b></p>	
<p>《回答》 教員志望の学生に対して、教職課程センターと連携して、教職試験対策講座を受講させる措置を講じることなどを検討している。</p>	<p>《根拠資料》 30-C4-1： 第7回日本文学専攻協議会議事録（2022.12.15）</p>
<p><b>★項目(3) 4-3②当該部局のカリキュラムの編成、授業科目の配置の特性について解説してください。</b></p>	
<p>《回答》 演習科目と講義科目としての特殊研究科目とに分け、演習科目を研究指導教員による科目として位置付け、他は、演習科目と有機的に関連づけながら、専門的な知識と豊かな教養を身につける科目として編成している。</p>	
<p><b>◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。</b></p>	
<p>《回答》 近世文学を担当する教員が今年度限りで退任するので、後任の補充について議論する必要がある。</p>	
点検・評価項目(4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
評価の視点1※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。根拠資料→A4-43Web サイト シラバス
評価の視点2※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制
評価の視点3	学習の進捗と学生の理解度の確認
<p><b>★項目(4) 4-4①授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。</b></p>	
<p>《回答》 ガイダンス時に論文指導スケジュールを示し、修士論文等の進捗状況の確認の機会として、院生</p>	<p>《根拠資料》 30-C4-2：</p>

発表会等を実施している。		①「文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程論文関連スケジュール一覧」・「文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程論文関連スケジュール一覧」 ②第6回日本文学専攻協議会議事録（2022.10.31）「院生発表会」
評価の視点4※	履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む）。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、（オンラインの場合はWeb サイトも可→別紙の備考に URL 記入）	
評価の視点5※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス	
★項目(4) 4-4②オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているかを確認する方法などについて根拠資料を用いて回答してください。		
<<回答>> 日本文学専攻全体としては取り組んでいない。		<<根拠資料>> 30-C4-3：なし
評価の視点6※	研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュールなど）をあらかじめ学生に明示し、それに基づく研究指導を実施している。根拠資料→B4-73 研究科研究指導計画、基礎要件確認シート 13	
◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。		
<<回答>> 特になし		
点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
評価の視点1※ <b>【基礎要件●】</b>	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-2* 大学院学則、基礎要件確認シート 10,12,13、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料	
評価の視点2※ <b>【基礎要件●】</b>	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-2* 大学院学則、A4-36* 学位規則、基礎要件確認シート 10,12,13	
◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。		
<<回答>> 特になし		
点検・評価項目(6)	4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
評価の視点1 <b>【評価要件○】</b>	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いもの）にあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※成果指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果	

<p>評価の視点2 【評価要件○】</p>	<p>学生の学修成果の測定方法を開発している。          ≪学修成果の測定方法例≫          ・アセスメント・テスト          ・ループリックを活用した測定          ・学修成果の測定を目的とした学生調査          ・卒業生、就職先への意見聴取          根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p>
<p>★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果(能力や資質)」 「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。</p>	
<p>≪回答≫          【日本文学専攻独自設定の評価指標】          ① 修士論文の成績          ② 博士論文の成績          【測定方法】          ① すべての博士課程前期課程院生が修士論文を提出し、合格できるか否かを基準に測定          ② 博士課程後期課程院生の8割以上が博士論文を提出し、提出者の8割以上が合格できるか否かを基準に測定</p>	<p>≪根拠資料≫          30-C4-4 :          部局ごとの評価指標 (2022—2025)</p>
<p>★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果(共通設定と、独自設定含む)について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。</p>	
<p>≪回答≫          【共通設定】          アンケート結果は、日本文学専攻単独ではなく、全学的なものであるが、学生の満足度が高いことが確認された。          【独自設定】          2022年度、対象者2名のうち2名が修士論文を提出し、2名とも成績は合格(良好)だった。          博士論文の提出・成績は、在籍者がいないため測定できていない。</p>	<p>≪根拠資料≫          30-C4-5          ①「2021年度大東文化大学院(博士課程前期課程)修了時アンケート集計結果」          ②第2回文学研究科委員会議事録要旨(2022年5月16日開催)          ③2022年度「修士論文審査報告書」</p>
<p>★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。</p>	
<p>≪回答≫          日本文学専攻単独の院生アンケートも実施し、その結果に基づく分析と活用が今後の課題である。</p>	
<p>★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。</p>	
<p>≪回答≫          測定結果の分析方法と活用対象を定めることが近々の課題となっている。</p>	
<p>点検・評価項目(7)</p>	<p>4-7教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。</p>
<p>評価の視点1※ 【評価要件○】</p>	<p>適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。          ・学習成果の測定結果の適切な活用          根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について</p>
<p>評価の視点2 【評価要件○】</p>	<p>点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。</p>
<p>★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。          他大学事例：          ・論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。          ・「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。          ・英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理しFD部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。          ・論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を</p>	

設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。	
<<回答>> 測定を行っていないので、回答できない。	<<根拠資料>> <b>30-C4-6 : なし</b>
<b>項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。</b>	
<<回答>> ①参加した学会、執筆した論文など研究成果を学年末に報告させ、研究の現状の確認と今後の発展の一助となるように図っている。 ②卒業生に対するアンケートを毎年実施している。	<<根拠資料>> <b>30-C4-7 :</b> <b>①「2022年度大学院研究活動報告」</b> <b>②「2021年度大東文化大学大学院(博士課程前期課程)修了時アンケート集計結果」</b>

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注: 前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・ 特色
-----------

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注: 複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題 点・ 課題
----------------

#### IV 【改善計画(事業計画)】

カ テ ゴ リ	計 画 番 号	B 票No. or 開始 年度	改善計画 (アクション プラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	2	2022- 4III- 1(4- 7)	学生調査と卒業 アンケート測 定・分析計画の 活用	測定・分析計画を活用し教育改善計画を実施する。	学生調査と卒業アンケートを組み合わせて目標の達成度を検証し、教育改善に反映していく。	A(100%): 実施 B(80%): 計画 C(50%): 検討 D(20%): 測定・分析	2022 未結 果 : D 2023 : D 2024 : C 2025 : C 2026 : B 2027 : B 2028 : A
①	3	2023 (2022 ~継 続)	(日本文学専 攻) 大学院特別 講義の実施	外部講師(他大学の教員・作家など)、または、本学を退職された先生による、日本文学・日本語学、その他にわたるテーマに基づく講演を行う。	幅広い専門領域の講義を受けて、自己研究の新たな視点、方法を見いだすことができる。	A(100%): 参加者数の増加 B(80%): 実施 C(50%): 計画 D(20%): 検討	2023 : A
①	4	2023 (2022 ~継 続)	(日本文学専 攻) 『日本文学 論集』の発行	院生各自の日頃の研究成果を論文にまとめ、研究誌『日本文学論集』として発行する。また、全国の諸研究機関に発送寄贈する。	修士論文および博士論文を見据えての、問題設定の確認と、論文執筆の方法を身につけることができる。	A(100%): 論文数の増加 B(80%): 実施 C(50%): 計画 D(20%): 検討	2023 : A

①	5	2023 (2022 ～継続)	(日本文学専攻) 院生発表会の実施	院生各自の日頃の研究成果を論文にまとめ、研究誌『日本文学論集』として発行する。また、全国の諸研究機関に発送寄贈する。	指導教員以外の教員や学生の批判に接することで、従来の研究を再検討したり、有効性を再確認したりする機会をもつ。院生同士で刺激を与え合い、切磋琢磨しあう機会ともなる。	A(100%)：参加者数の増加 B(80%)：実施 C(50%)：計画 D(20%)：検討	2023：A
---	---	-----------------------	-------------------	--	---	--	--------

## V【内部質保証委員会による点検・評価】

<p><b>2022年度&lt;所見&gt;</b></p> <p>学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするための院生発表会の活用は評価できる。また、卒業生に対するアンケートを毎年実施していることも、学修成果を教育課程の改善に取り組みとして有効だと思われる。継続的に結果を蓄積し、教育課程に改善に繋がりたい。社会的、職業的自立を図るためのキャリア教育は実施されていないが、その必要性についてあらためて検討されたい。</p> <p>2021年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、修士・博士論文の成績としている。活用としては、カリキュラムの検証、DPに示した学習成果（能力の積算）との検証、学修支援内容の検討としている。これらの測定結果は今後、基準4の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。</p>
<p><b>2023年度&lt;所見&gt;</b></p> <p>学習成果を把握するため論文審査を測定方法として設定し、その結果も検証されていることは評価できる。これに加えて日本文学専攻単独の院生アンケートを実施することを課題とされているが、事業計画のアクションプラン「学生調査と卒業アンケート測定・分析計画の活用」のことで推察される。これらの直接評価と間接評価を評価指標として、今後、更なる教育改善・向上に取り組むことを期待する。</p> <p>学習成果の把握のための測定方法と評価指標は、当該部局の教育の特性に応じて設定されることが望ましく、教育の目標や実際の授業方法に関して「どうしたいか」をまず見極め、そのために必要な数値データやアンケート項目は何か？などの考察を経て評価の指標が設定されることになる。説明するまでもないが、その指標に基づく評価結果が自己点検・評価の根拠として使用され、教育内容や方法の改善に活かされていくことで始めて本来の目的が果たされるわけである。貴専攻では、事業計画のアクションプランとして『日本文学論集』の発行、「院生発表会」を設定し目標値を設定されている。これも学習成果の把握の一環として捉えて測定方法に追加できるのではないかとと思われる。</p>

## ◆評価の基準について

## ※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注>「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

## 基準4 教育課程・学習成果

## 【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表し

なければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。